

アダプト  
ゲン製薬

## 市場環境の変化に対応 OEM から次のステップへ



▲林博道社長

健康食品、医薬品等の OEM メーカーとして、高品質な製剤を受託製造してきた。独自開発したヒアルロン酸食品の ECM・E を使用した商品は、ヒット商品となり業界に広く認知されている。受託製造は「誰かのために作る」ことだが作った商品の販売にもタッチするべきだと以前から考えてきた。「誰かのために作る」ことに加え「誰かのために何かをする（売る）」ことに歩を進める。

当社の場合、健康食品 GMP に準じた高品質な製品を製造でき、アンチ・ドーピングの国際規格「インフォームドチョイス」もアジア初で認証を得ている。BCAA で高いブランド力をもつ米国・ニュートラボルト社と提携し、「XTEND」の販売に着手した。同商品は世界に流通しているが、日本市場では専用レシピで当社が製造販売する。当面は DgS ルートを中心に 1 万店舗での導入を計画 중이다。

スポーツニュートリションは興味深い。健康食品は、予病、未病を目指し中高年世代の消費者に支えられている。スポーツニュートリションは必要とする消費者の年齢層のバンドが幅広く、中国や東南アジア市場もターゲットになる。「XTEND」の製造と国内外への販売によって「スポーツニュートリションの製造ならアダプトゲン製薬」となりたい。「売る力」を身につけ、本業である受託製造で、付加価値を更に磨くとともに事業に厚みを持たせていきたい。

アルビス

## 事業通じて地域の課題解決へ 中計で最適物流網を立案

▶池田和男社長



4 月～) から、3 か年の第三次中期経営計画が開始し、3 年後の 24 年 3 月期売上高は大台の 1000 億円を超える見込みだ。

一方で、人と社会、地球環境、地域に優しい活

北陸圏（富山、石川、福井）の食品販売高ベースでの食品スーパートップシェア「アルビス」。ここ 6 年の売上高年成長率は平均約 5% と安定成長を続けており、今期（21 年

動を行う SDGs プロジェクトとして、持続可能な社会を作るコミュニケーションメッセージ「つながるアルビス」を掲げ、地域と一緒に「事業を通じた地域社会の課題解決」に取り組むにあたり、その専門部署として 21 年 4 月に「ブランド推進部」を設立。これまでも「フードドライブ」、「リサイクル推進」などに積極的に取り組むと共に、商品でのロス削減では、例えば精肉の端材を活用したメンチカツなど、製造工場における派生品を利用した商品開発を強化している。

3 か年計画初年度の今期は、7 月に初の愛知・名古屋に出店し、池田和男社長は「想定以上に北陸の商品が売れている」と手応えをつかんだ。今後も北陸と東海地区での店舗拡大を見据え、池田和男社長は「拠点含めて、この 3 年間で最適物流網を立案する」としている。

店舗数は、今期末は新店 3 店舗が加わり 64 店舗。その後は、22 年度プラス 3 店（北陸 2、東海 1）、23 年度プラス 5 店（北陸 3、東海 2）。よって 24 年 3 月期末で 72 店舗を計画している。